



校長室だより～湘南の空～

第 16 号

令和 5 年 1 月 10 日

年が明け、3年生は全力を傾け勉強していることと思う。湘南の仲間と培った力を信じてほしい。全員が第一志望校に進学することを心より願っている。

昨年 12 月 23 日の全校集会では、体育祭のような熱気を感じることができた。生徒の皆さんは理念・目標を掲げ突き進もうとしているに違いない。一回りも二回りも大きくなった皆さんは実に頼もしい。取分け 3 年生はたくましく、眩しかった。よい意味で開き直って“Always do”の精神を発揮しているということだ。表彰待ちの列は体育館の長辺を折れ L 字になった。目先の結果にとらわれず、努力し続けた湘南生に敬意を表したい。

また、新春恒例のスキー教室の参加人数は増加傾向で、今回は 200 名以上と史上最多を更新するなど、湘南生のパワーは健在だ。

今年の湘南生の挑戦が楽しみでならない。

人々が探し求める「主体性」は“Always do”の精神の中に

主体性とは、「他から影響されることなく、自分の意志や判断によって行動しようとする性質・態度。」(広辞苑) “Always do”は迷ったら大変そうな方に進むという湘南高校のモットーであり、判断規準である。湘南生は「あなたは世界をどう変えますか？」という問いに立ち向かい、仲間とより美しい景色を見るため、自らを励まし導いていく。「主体性」に近い意味の英語を列举すると、activeness 積極性、pro-activeness (先を見越した) 積極性、能動性、autonomy 自律性、independence 独立、自立、individuality 個性、voluntariness 任意性、ownership 当事者意識、responsibility 責任、Always do what you are afraid to do 最も困難な道に挑戦せよ。

人々が探し求める「主体性」は“Always do”の精神の中にあるのではないか。

自分を見つめ歌が生まれる

歌手の加藤登紀子さんは、東京大学在学中に日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝、1965年にデビューを果たし、「知床旅情」など数々の名曲・ヒット曲を生み出した。また、アニメ映画『紅の豚』（1992年）では声優としての魅力も発揮している。

加藤さんは歌が生まれる状況について「思いが強くて、しっかり行動できるとはかぎりません。思想信条や信念ではなく、むしろ理屈や思いを覆すような感情があふれてくるとき、それがむしろ自分のリアリティであれば、それを手で触りながら、携えて乗り越えていく。そういうときに歌は生まれます。」

（「近藤誠一全集 I」近藤さんは本校 39 回）真に新たな課題は「理屈や思いを覆すような感情」から生まれてくることが伝わってくる。

第 12 号で述べた「身体感覚と感情の取り戻し」として、バラバラのエピソード記憶を、「それらすべては私が経験したもの」という感慨とともに一つに統合するためには、各々のエピソードに直面したときに生じた、たった一つしかない自分の身体反応の記憶が結び付いている必要があった。

「理屈や思いを覆すような感情」は、例えば、好奇心をもって、「いま、ここ」の身体感覚に注意を向け続けながら、実現したい未来に向けて突き進み、壁にぶつかり、途方に暮れる自分と向き合う瞬間にあふれてくるのではないか。